

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400248		
法人名	株式会社 エーアイエム		
事業所名	グループホーム 縁ゆくり		
所在地	秋田県大館市宇桜町35		
自己評価作成日	令和2年7月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	令和2年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域にある施設ということを重視し、地域の行事への参加や見学、地域の行事にあわせた活動を行うことができるように取り組んでいます。季節の行事や食事を意識し、散歩の際も敷地内にある桜や紅葉をみていただく等、五感で季節を感じることができるように配慮しています。また、利用者の方々の希望をお聞きし、可能な範囲の中で個別サービスを提供するようにしています。

提携医療機関が同一敷地内にあることで、普段の利用者の方々の様子について情報提供をスムーズに行うことができていると考えています。

また、提携医療機関と連携をし、認知症カフェを行い、地域の方々への認知症についての知識の提供、参加者間の交流の機会を提供を行いました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・新型コロナウイルスの影響で様々な活動が制限される中、十分な感染防止対策に心掛け、利用者の自立を維持した運営に心掛けている。
- ・利用者の外出支援に重点的に取り組んでおり、コロナ禍においても無理のない範囲内で活動的な生活を送ることができている。
- ・利用者の声に真摯に耳を傾け、様々な要望に応えるなど、常に利用者を中心とした介護に心掛けています。
- ・提携している医療機関が敷地内にあり、利用者の健康管理や急変時には柔軟に対応することができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感謝・まごころ・笑顔を理念とし、玄関に掲げています。貧しい時代から今を作り上げてくれ、またこの施設を選んでくれたことに対しての『感謝』『まごころ』で接しています。また、『笑顔』の溢れる場であるよう日々の実践につなげています。	「感謝・まごころ・笑顔」の理念は玄関に掲示しており、開所当時から変わらない。職員会議等で理念を共有するように努めており、スタッフ会議等でも随時確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度までは近隣の公共施設への散歩やお祭り等へ参加、小学生と交流、家族交流行事へ町内会の方の参加、認知症カフェを行いました。今年度は感染症予防の観点から実施はありませんでした。	例年、神明社のお祭り等、近隣住民と活発な交流が行われているが、今年度は感染症防止の観点から交流を自粛しており、面会等も制限している。	
3		○事業所の力を活かした 地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、 地域の人々に伝え、地域貢献している	グループホーム便り等を通じて認知症に関する情報等の提供を行っています。また、職員が近くの大学での授業を受け持ち、認知症に関しての知識も大学生に伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度までは運営推進会議では行政、包括、家族など多角的な視点から意見交換を行い、利用者の生活向上につなげています。具体的な課題の検討を行っています。今年度は会議は自粛し、書類をお送りしているところです。	例年、定期的に運営推進会議を実施してきたが、今年度は感染症防止のため会議を自粛している。代わりに書類を送付することで関係者との情報共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市福祉課職員や地域包括支援センターの職員が運営推進会議の委員として参加し、情報交換をしているほか、施設の運営、利用者の小さなことでも相談できる関係です。	市の関係者とは随時連携するように努めており、利用者へのサービス向上に活かしている。また、利用者の介護度が変更になる際には情報を共有するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を開け、自由に入出入りすることができる環境を整えています。センサーを取り付け、見守りするように心がけています。入職時研修にて身体拘束防止研修、運営推進会議での身体拘束防止の取組を行っています。	身体拘束防止に関するマニュアルが整備されており、身体拘束を実施した事例はない。新任職員に対しては身体拘束防止に関する内部研修を行うなど、常に身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する情報の提供、外部研修の情報提供を行っています。入職時研修での虐待防止についての研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現状では成年後見制度等を利用していらっしゃる方や利用を検討されている方はいらっしゃいませんが、ご本人やご家族の状況に応じて活用できるように考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等の際には書類を用意し、口頭での説明も行い、同意をえています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際に利用者の方々の様子をお伝えし、お話をうかがうようにしています。また、年2回、ゆったりとお茶の時間をもち、利用者の方々のお話を伺い、意見や希望を取り入れる仕組みづくりをし、運営に反映させています。	現在は感染症防止のため、家族の面会は制限しているが、電話等で要望を聞いている。利用者からは、年に2回、十分な時間をかけた茶話会の中で様々な要望を聴き、その後の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事等の後には振り返りを行い、その場で出た意見を次回以降に反映させるようにしています。また、スタッフ会議、運営会議を定期的開催し、それぞれの意見を出し合うようにしています。	行事等を実施した際、運営状況について必ず振り返りを行い次回に活かしている。また、定期的なスタッフ会議及び運営会議等で出された意見を共有するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算にて処遇の改善に努めています。各職員の経験に応じて、外部研修の機会を提供し、キャリアアップを応援しています。また、年次休暇の取得を促しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた外部研修と内部研修を行っています。外部研修の内容は会議や紙面にて共有を行い、研鑽を積める環境の提供を行っています。また、職員自身の振り返りをもとに、アドバイザーによる面談を行い、研鑽をつめる環境を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携、医療・福祉機関との連携を行っています。また、外部研修に参加した際には同業者と交流を行い、様々な情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人のお話をうかがい、入居直後は特に配慮し、注意して様子をうかがい、お話をうかがうようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族からの話を丁寧うかがう機会を持ち、入居前からの関係づくりに努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々の得意な家事をお願いし、声掛けをして掃除や料理、洗濯物干し等を行うようにしています。行事の際にはきりたんぽやおにぎり等を作っていたり、普段でもホットケーキ等を共に作り、食べることを楽しんでおります。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月、利用者の方々の様子を手紙でお伝えし、年に一度、家族交流会を持ち、普段話せないことなども話せる場を持ち、交流をはかっています。また、BPSD等ある際にご家族と相談し、一緒に検討するという事もありました。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活継続ができるよう支援しています。昨年度まではお祭り等に参加し、地域との接点を持ち、地域での生活の継続を図っています。近くに多くの公共施設があり、散歩の際に思い出を話されることもあります。	感染症防止のため、現在は買い物や地域住民との交流はある程度制限している。馴染みの美容院へ行く際には感染症対策を強化して、以前と同様の生活が継続できるように支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用される方々の心情に配慮し座席や環境を整え、交流しやすい環境づくりができるよう取り組んでいます。職員が間に入り利用者間のコミュニケーションを繋いだり、行事やレクリエーションを通してが交流が図れるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退去等の際にもご家族と連絡をとりあい、その後のご本人のためにできる限り取り組ませていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折に触れ、行きたい場所やしたいことをうかがい、可能な範囲でご希望に添えるように取り組んでいます。また、年に2回お茶会を開き、利用者の方々の意向をくみ取れるよう努めています。	できるだけ利用者の要望に応えることができるように取り組んでいる。利用者の誕生日には個々の利用者の希望に応じて、好きな食事や外出等の個別サービスを提供している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 生きがい 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族や本人との面談、居宅支援事業所の介護支援専門員からの情報提供、入居後の様子等から、基本情報(これまでの暮らしのこと等)をしっかりと把握して日々の生活や活動に取り入れるよう努めています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りを通しての理解、介護記録を通して職員間での状況の共有を行い、一人ひとりの利用者の方々の状況把握に努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご利用者、現場職員の意見を反映し、モニタリング、サービス担当者会議を定期的で開催しています。一人ひとりの現状に即した介護計画を作成しております。	利用者や家族の意見を反映して、個別的な介護計画を立案し提供している。定期的なモニタリングやサービス担当者会議により、現状に即しているか確認している。	個別介護計画の個別サービスに関しては、より具体的かつ詳細に記載されることにより、個別的できめ細かなサービスが提供されることを期待する。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についての介護記録を作成し、職員間で情報共有を行っています。スタッフ会議で意見要望や利用者の状況を出し合い、情報共有をベースとしながら、支援の見直しを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年度までは地域の行事への参加や見学、近所のお店や公共施設への見学、小学校との交流を行っていました。クリスマス会等の行事ではボランティアの方々にお力を貸していただき、利用者の方々に楽しんでいただけるように取り組んでいます。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があればこれまでのかかりつけ医を受診することができます。また、同一敷地内の医師も事業所の経営に関わっており、状況に応じた往診や日々の状態把握をしていただいています。連携を密に行い、いつでも相談できる体制を構築しています。	専門的な受診が必要な際は入所前のかかりつけ医を受診できるように支援している。それ以外は同法人の医師による診察を受け、随時往診するなどきめ細かな対応に心掛けている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の際に医師、看護師に情報提供を行い、適切な治療を受けられるよう取り組んでいます。また、看護師(介護職兼務)が勤務の際には、必要に応じて相談を行っています。同一敷地内に病院があり適宜相談できる体制となっています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した病院を訪問し、病院関係者との情報交換を行い、今後についての話し合いをもつ等、連携を行うことができました。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化の際の対応について書面と口頭で説明しております。医療関係者との連携も図り、可能な限り対応しております。看取りに関しての研修を計画しています。	終末期における緩和ケアや看取りに関する内部研修を実施しており、利用者の重度化に向けた支援を強化している。利用者本人や家族の意見を重視しながら終末期の対応も可能になっている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成しています。また、緊急時の対応についてはすぐに目に入る場所に掲示しています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備し、年2回利用者と共に火災や地震等を想定した避難訓練を実施しています。消防署の協力を得て、避難経路の指導やAEDの使い方等実効的、実践的な訓練となっています。	毎年、消防署の協力を得ながら利用者と共に火災や地震を想定した避難訓練を実施している。今年の秋には近隣の住民及び隣接する医院の従業員を加えた避難訓練を予定するなど、地域と協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活背景を考え、その人らしい尊厳を保てるよう敬意を払い、プライバシーに配慮した言葉かけを行っております。	職員間で利用者の情報を共有しており、個々の利用者に応じた支援に心掛けている。排泄の際にはさりげなく声を掛けて誘導するなど、利用者のプライバシーに配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	折に触れ利用者の方々に行きたい場所やしたいことを伺い、可能な限り対応しています。また、個別サービスとして、誕生日には行きたい場所等に外出する機会を設けております。また、お茶会で意見、要望をお聞きしています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々へのペースや望まれる過ごし方に応じた支援を行っています。 洗濯物畳みや食器拭き等、手伝ってくださると希望された方には積極的に手伝っていただいています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の方々のおしゃれや身だしなみの支援を行っています。外出の際には声掛けをし、季節に合わせた服装やおしゃれに気を付けた服装を選ばれるよう支援をしています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内に小さな畑があり、作った野菜が食卓に並ぶこともあります。利用者の方々への希望を献立の反映や季節を感じる食事を提供等、楽しく食事できるよう努めています。野菜切り等でご利用者と職員と一緒に取り組んでいます。	敷地内の菜園でナス、トマト等の野菜を栽培している。収穫した際は利用者も調理補助を行ってくれることもある。また、山菜の皮むきも利用者と一緒にいき、調理に参加することで食事を楽しんでいただいている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう 状況を把握し 、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を記録し、確実に水分補給の機会も確保しています。飲み物も希望があった際には可能な範囲で希望の飲み物を提供しています。居室で飲み物をのまれる方等は、ホール用と居室用の湯飲みにて対応しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の方々に合わせて、声掛け、見守り、一部介助等による口腔内のケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄できるよう支援をしています。排せつ間隔があいていれば声掛けをし、回数が多ければ様子観察をし医療職に相談したりと自立にむけた支援を行っています。ご利用者の状態に合わせ福祉用具も利用しています。	夜間にポータブルトイレを使用する利用者も日中はトイレを使用している。排泄記録により利用者の排泄周期を把握して、適切な時間帯にトイレに誘導するなど自立した排泄支援に心掛けている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事を心がけ、運動・体操も行い、排泄について利用者の方々の状況把握に努めております。水分補給にも努め、便秘気味の方については医療機関にも相談して対応しております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全に配慮しながらも好みの温度や入浴時間を考慮して順番の変更等を行っています。安心して入浴できるよう脱衣所の保温等への配慮も行っています。入浴中に歌をうたわれる等、その方その方の入浴のスタイルを尊重しています。	利用者個々の要望に応じた入浴を支援しており、シャワー浴にも対応している。入浴の際の洗身及び着替え等において、できることはご自身で行っていただくよう、自立を重視した入浴に心掛けている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏場はエアコンを随時使用し、室温調整しております。冬季の間は入眠前に電気あんかを利用したり、温かい環境に配慮し、安眠することができるよう取り組んでいます。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師との連携を密に行っています。薬の変更等があった際には様子を伝えたり、薬の効果、副作用についての情報をいただいています。薬について不安なことがあった際には随時、医療職に相談をするようにしています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事をしていただご利用者には畑での野菜の栽培を手伝っていただきました。嗜好品等も、利用者の方々の希望に可能な範囲で応えるよう取り組んでいます。配膳、食器拭き等をお願い、役割をもっていただけるようお願いしています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣にある図書館や文化会館等への散歩に出かける機会があります。家族からの希望があれば健康状態について伝えながら外出や外泊は可能でしたが、感染症流行のため現在はお控えいただいています。	現在は感染症防止対策のため、公共施設への外出は控えているが、日常的な外出は継続しており、天気の良い日に玄関先でくつろいだり、近所を散歩することで気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望でご自身で管理される方、施設で預らせていただいている方がいらっしゃいます。花見の際には出店で買い物ができるように、預り金等を準備して出かけることができました。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の希望がある際に電話をしていただくこともありました。ご家族からの電話も利用者の方に取次ぐ等の対応も行っています。また、お手紙のやり取りを続けられている方もいらっしゃいます。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の場所は視覚的にも分かりやすいように配慮をしています。また、掲示物等でも季節を感じるができるよう配慮し、においや温度等も過ごしやすい様子を気をつけて対応しています。観葉植物や季節の草花を飾り、季節や自然を感じられるよう配慮させていただいています。	24時間換気システムを導入しており、常に清浄な空間になるように心掛けている。季節を感じることができる草花及び掲示物により、利用者は屋内にいても四季の移り変わりを楽しむことができている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際に利用するテーブルの他にソファと机を用意し、一人ででも、複数でも過ごせるような居場所を用意しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、カーテン以外は自宅で利用されていた家具等をご持参いただき、ご家族の協力のもとそれまでの生活を意識した部屋作りをしています。ご家族の写真や仏様を持参され、飾られたり、置かれたりされていらっしゃいます。	ベッド、ダンス等は居室に備え付けられているので、それ以外の家具等は自由に持ち込むことができる。家族の写真や遺影を飾ることで、自宅と同様の生活空間で過ごすことができている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はすべてバリアフリーとなっており、廊下や浴室には手すりを設置し、安心して生活できる環境となっています。		